

天草家保通信平成23年7月号

〒863-0002 天草市本渡町本戸馬場1706-3
 電話番号 0969-22-3668 FAX番号 0969-24-4393
 ホームページアドレス <http://www.pref.kumamo.jp/site/amakusa-1219>
 電子メールアドレス amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp



今年も猛暑に備えましょう！！

大雨となった今年の梅雨も終盤に入り、いよいよ本格的な夏がやってきます。昨年の猛暑により畜産農家も大きな被害が出ましたが、今年も、例年以上の気温が予想されています。暑熱対策を十分に行い、家畜を暑さから守りましょう。

【九州北部地方の7～9月の天候見通し】

6月23日福岡管区气象台発表

7月：平年に比べ晴れの日が多い。気温が平年より高くなる可能性が高く、降水量は平年並みもしくは少ない。

8月：平年と同様に晴れの日が多い。気温・降水量ともに平年並み。

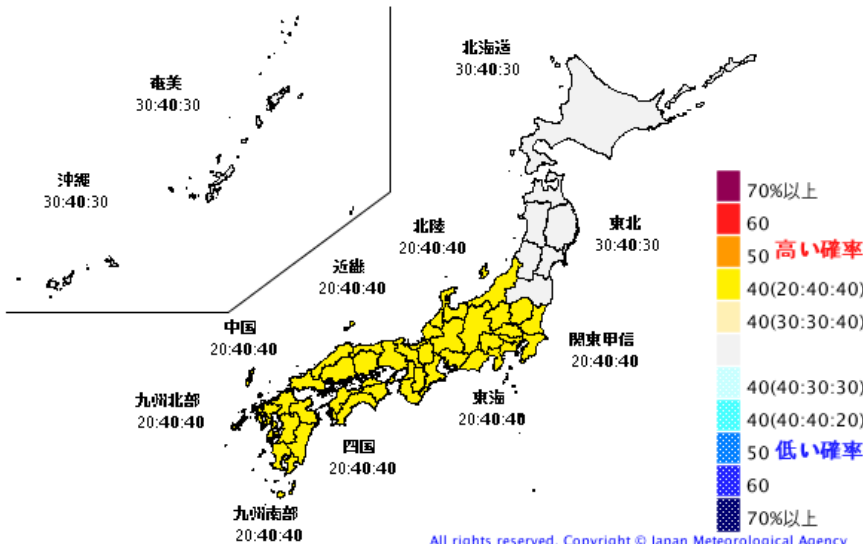
9月：天気は数日の周期で変動。気温は平年並みもしくは高くなる。

平均気温

7月～9月

「高い」または「低い」確率が40%以上の地域

地域名の下の数値は、左から、低い：平年並：高いの各確率（%）



気象庁HPより引用

暑熱対策の基礎知識

乳用牛では28℃以上になると、体表からの熱放散が増加するといわれています。暑熱対策で重要なのは家畜の外部環境を整え、畜舎の気温や湿度をコントロールし、家畜からの熱の放散を手助けすることです。併せて、冷たい水や、ストレスを低減するためのビタミン剤を給与するなどして、家畜の内部環境を整えるとさらに効果的です。

①外部環境を整える

- ・扇風機や散霧により、家畜からの熱が放散しやすい環境をつくりましょう。湿度が上がると、逆に熱の放散を妨げます。
- ・寒冷紗や樹木などを利用して、家畜や畜舎に直射日光が当たらないようにしましょう。このとき、畜舎の換気を妨げないように注意が必要です。
- ・屋根や壁に断熱材を貼ったり、防暑用塗料を塗り輻射熱を低減しましょう。屋根への散水も効果的です。
- ・密飼いを避け、適切な飼育密度を保ちましょう。

②内部環境を整える

- ・清潔で冷たい水を十分に給与しましょう。ウォーターカップや水槽にはできるだけ日が当たらないようにしましょう。
- ・暑熱ストレスによりビタミンやミネラルが多く失われます。ビタミンAやビタミンE、ミネラルなどを通常よりも給与しましょう。
- ・削蹄や蹄病を治療するなど蹄を手入れしましょう。牛は立つことで体表面積を増やして、熱の放散を増加させています。

家畜は汗腺が少ないため、暑くなってくると、体内の熱を逃がすために呼吸を速くします。これをパンティング（あえぎ）と言いますが、このような状況がみられたら熱射病にかかっているかもしれません。軽症の場合は冷水を給与し水浴びをさせるなどして、速やかに体温を下げるのが重要です。重症の場合は、放置せず獣医師による治療を受けましょう。



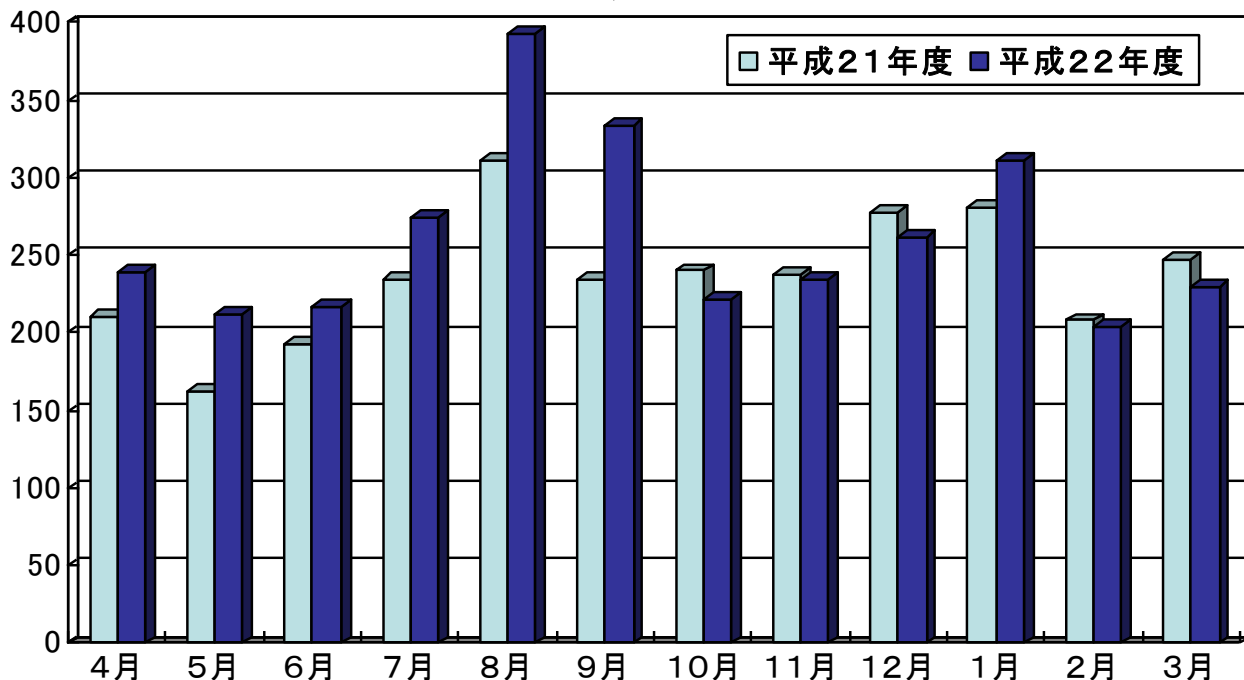
夏期の死亡牛BSE検査にご協力をお願いします

平成15年12月から牛海綿状脳症（BSE）対策の一つとして、菊池市七城町にある中央家畜保健衛生所BSE検査所で死亡牛のBSE検査が始まりました。

昨年は猛暑の影響もあり、これまでで最も多い3,133頭（例年2,800頭程度）の搬入がありましたが、このうち約5%が腐敗により検査不能となっています。また、届出書に記載されている原因の3.3%が熱射病（平成21年度は1.7%）となり、夏期に死亡牛が増加したことがうかがわれます。

これから暑くなると、牛の死亡が増加し、あわせて短期間で腐敗が進むことが予想されます。腐敗が著しく進行し、化製処理が困難と判断された場合には1頭あたり35,000円の処理量が必要となります。牛が死亡したら、速やかにBSE検査所に搬入していただくようお願いします。

死亡牛受入状況



BSE検査所では7月から9月までの3ヶ月間、土曜日の受付時間を延長して対応しています。関係者のご協力をよろしくお願いいたします。

I 対応期間：平成23年7月1日～9月30日

II 受付時間：月曜～土曜

8：30～11：30および13：00～15：00

III 休日：日曜と祝日。ただし9月19日（敬老の日）と9月23日（秋分の日）は平常どおり受付ます。

監視伝染病発生状況

平成23年4月～6月までの間に、九州各地で監視伝染病の発生が報告されています。家畜を導入される場合は導入先の衛生状況を確認するとともに、一定期間の隔離飼育を行うなど、「伝染病を持ち込まない」対策を実施しましょう。

I 家畜伝染病

	発生県	畜種	発生戸数	発生頭羽数
馬伝染性貧血	福岡県	馬	1戸	1頭
	宮崎県	馬	1戸	1頭
伝達性海綿状脳症	福岡県	めん羊	1戸	1頭
	大分県	めん羊	1戸	1頭
ヨーネ病	長崎県	牛	1戸	2頭
	熊本県	牛	1戸	1頭
	鹿児島県	牛	1戸	1頭

II 監視伝染病

	発生県	畜種	発生戸数	発生頭数
牛白血病	山口県	牛	2戸	2頭
	佐賀県	牛	5戸	5頭
	熊本県	牛	22戸	24頭
	宮崎県	牛	1戸	1頭
	鹿児島県	牛	10戸	10頭
牛伝染性鼻気管炎	佐賀県	牛	1戸	1頭
破傷風	佐賀県	牛	1戸	1頭
	宮崎県	牛	1戸	1頭
	鹿児島県	牛	9戸	9頭
牛ウイルス性下痢・粘膜病	大分県	牛	1戸	1頭
豚丹毒	佐賀県	豚	3戸	3頭
	宮崎県	豚	1戸	1頭
豚サルモネラ症	鹿児島県	豚	1戸	1頭
	熊本県	豚	1戸	1頭
豚赤痢	鹿児島県	豚	1戸	3頭
豚繁殖・呼吸器症候群	鹿児島県	豚	1戸	2頭
鶏マイコプラズマ病	宮崎県	肉用鶏	1戸	794羽

【主要伝染病の解説】

ヨーネ病：ヨーネ菌による慢性的な下痢と消瘦が主徴。治療法が無いため、家畜は徐々に衰弱し死亡する。乳用牛では結核病・ブルセラ病と併せて5年に1回の定期検査による早期摘発と淘汰が行われている。

!

家畜の異常を発見された場合はご連絡ください。
天草家畜保健衛生所 電話番号0969-22-3668

?